

【 パ ッ ケ ー ジ ソ フ ト 】

# セル市場 10月度レポート

◆————◆  
< 2011年11月14日 >

2ヵ月連続の作品不足で、数量、  
金額とも今年最低を更新

KRI 

キネマ旬報映画総合研究所

セル市場  
10月度レポート

## 【1-9月の平均販売金額の半分に満たない低水準】

「9月を下回り今年最低の売上」、「3月に並ぶ厳しい販売状況」と、小売店からは悲鳴に近い声がかかる。調査会社GfK Japanの上位300位集計（販売数量ベース）で見ても、今年最低だった前月を、10月はさらに12.1%下回った。その最大の原因は、市場をリードする強力タイトルの不足にある。トップにランクされたタイトルの当月販売数量46,899は、今年に入っての最低。1～9月の1位作品の平均販売本数が約19万本であることと比較すると、その弱さは明白だ。各月の販売金額トップ100の合計販売金額で比較すると、さらに深刻度が増す。10月の32億6401万円は、震災の3月を11億4000万円、『スター・ウォーズ』一本かぶりの9月を19億7000万円下回る。1～9月の月平均販売金額は70億円を超えているので、10月は半分以下の水準だ。

## 【新作の販売数量は、映画、アニメ、音楽とも低調】

そんな中、10月度集計（9月26日～10月23日）＝販売数量ベースのトップとなったのは、『アメトーク！ DVD⑰』。同作は、同日発売の『⑱』が3位、『⑳』が4位に入り、低調なチャートの中でひとり気を吐いた。このジャンルでは、『内村さまぁ～ず』の『vol.32』『vol.33』『vol.34』も19位、20位、22位に入った。

2位には『GANTZ PERFECT ANSWER（本編ディスク1枚＋特典ディスク1枚）』DVD、5位には『同』BDがランクイン。4月公開の興行では、前作の34.5億円には届かなかったものの28億円の大ヒットとなったSFアクション邦画。二宮和也、松山ケンイチのキャスト引きと相まって、新作映画の中で抜けたヒットとなった。DVD、BDを併せると66,186本で、『アメトーク！ DVD⑰』を上回る。新作洋画のトップは『X-MEN：ファースト・ジェネレーション 2枚組ブルーレイ&DVD&デジタルコピー（ブルーレイケース）〔初回生産限定〕』の8位。この作品はSKU数が多く、16位に『同（DVDケース）〔初回生産限定〕』、30位に『同 ブルーレイ コレクターズエディション〔初回生産限定〕』、114位に『同 ブルーレイBOX〔初回生産限定〕』が入り、4SKUのトータルでは38,676枚を販売した。これに続く新作映画は、21位『ヒア アフター ブルーレイ&DVDセット（初回限定生産）』、25位『マイティ・ソー ブルーレイ&DVDセット（2枚組）』、36位『オーズ・電王・オールライダー レッツゴー仮面ライダー コレクターズパック』くらい。むしろチャートで目立つのは9位『バーレスク』、18位『ナイト&デイ <エキサイティング・バージョン>』、23位『ワイルド・スピードMAX』など、“DVDどれでも3枚3000円”等で販売される“キャンペーン”タイトルで、300位中に72作品、海外TVドラマや、洋画アニメを含めると、86作品を占めた。これらを含めて、10月の販売数量トップ300に占める映画ジャンルのシェアは、洋画が29.4%、邦画が8.1%となった。

タイトルの弱さは、このところチャート上位をにぎわし、市場を引っ張ってきたアニメ作品もしかり。10月のこのジャンルトップは、7位の『劇場版マクロスF～サヨナラノツバサ～ 初回限定封入特典「劇場上映生フィルムコマ」付き』DVDで26,150枚の実績を上げている。この作品、実はBDも存在しているのだが、PS3とのハイブリッド商品のため“ゲーム商材”として集計されている。『ファミ通』によれば、発売日から10月23日の間に11万枚を超えるセールスとなっており、低調な市況の中で、この数字をカウントできないことが、このジャンル全体のパワーを下げている、といっても過言ではない。とはいえ、発売の度にチャート上位をにぎわしてきたTV

アニメやオリジナルアニメのシリーズ最新作に、少々陰りが見えることが気掛かりだ。アニメは157,905枚を販売して、シェア14.1%にとどまった。

音楽作品にも目ぼしい強力作は見当たらない。6位に入った『BUMP OF CHICKEN / COSMONAUT』、10位にランクされた『チャン・グンソク / JANG KEUN SUK 2011 ASIA TOUR Last in Seoul』が邦洋のトップ。11位『RIP SLYME / GOOD TIMES DVD ~ The Complete Music Video Clips 2001-2011 ~ (初回限定盤)』、12位『シド / SIDNAD Vol.7 ~ dead stock TOUR 2011 ~ 完全生産限定盤』、13位『水樹奈々 / NANA MIZUKI LIVE GRACE -ORCHESTRA-』と上位に並び、トップ100に25作品、トップ300には65作品がランクインしている。にもかかわらず音楽ジャンルの販売総数253,013枚は、今年になって最低。シェアは逆に前月より3.5ポイント上回る22.6と伸ばし、市況全体の低調さを証明する形となった。

#### 【販売店からは悲鳴に近い声も上がっている】

有力販売店の10月度の状況も、軒並み前年割れ。一部で3月を上回ったチェーンもあったが、多くは、数量、金額とも今年最低となってしまった。CDにもリードタイトルが圧倒的に不足したのは、前月同様。2ヵ月連続の作品不足が、集客をさらに悪化させ一層の厳しさをもたらしたこと。そして『スター・ウォーズ コンプリート・サーガ ブルーレイBOX [初回生産限定]』のあるなし。理由を探す声にも元気がない。

映画作品で各販売店がタイトルを挙げた新作は『GANTZ PERFECT ANSWER (本編ディスク1枚+特典ディスク1枚)』くらい。「発売初週の週末にはイベント即売会をやったが、それほどという数字は獲得できなかった」(家電量販店A社)、「映画ファン+二宮のパワーに期待した。内容が少々グロイので心配したものの前作並みは確保した。邦画の中ではBD比率が高い。家にデッキが普及している証明になるかも」(CD&DVD販売店B社)、「化けるわけではなく予定通り。BD比率は高いですね」(CD&DVD販売店C社)、「ぼちぼち。初動アイテムなので、それほど全体を持ち上げない」(CD&DVD販売店D社)と、何処もあまり景気のいい声になっていないのが現実か。

全体に低調な販売だったことが、『アメトーーク!』などのお笑い・バラエティを目立たせている、という表現も異口同音で一致する。「特別売れたわけではない」(家電量販店A社)。同様に、特にCD&DVD販売店では、“DVDどれでも3枚3000円”の“キャンペーン”タイトルが、数量では上位を独占する結果となった。『『バーレスク』が1位。『ゴシップガール <ファースト> セット1 (5枚組)』、『ワイルド・スピード』の各巻がベスト10に並ぶ」(CD&DVD販売店C社)、「トップは『バーレスク』で、『ワイルド・スピード』はトップ10に4タイトルが並ぶ」(CD&DVD販売店D社)。C社は、「ハリウッドメジャーの洋画の“廉価待ち”がさらに顕著になっている。感覚で言うと、新譜時の1.5倍のマーケットサイズとなっている」と分析している。

低調な10月の販売状況から、各販売店の意識は早い段階から“ウインターキャンペーン”に移っている。「棚の整理や旧作の補充、年末企画の準備。タイトルがないときに無理をするより、年末に向けての店の見直しをする方がいい」(CD&DVD販売店B社)という発言が代表する。そして、販売店E社の悲鳴に近いコメントで、このレポートを締めたい。「作品がなければ小売店はどうすることも出来ない。9月、10月とCDもDVDもあまりにタイトルが少ない。店の販売管理費は、

作品が少ないからといって大きくは下がらない。もはや販売店はぎりぎりのところまで来ている。作れないものは作れないで仕方がない。出せない事情もあるかもしれない。ただ、そこを耐え忍ぶ知恵を業界全体で絞りあわないと、販売店もたない」。